

排他的經濟水域を考えよう

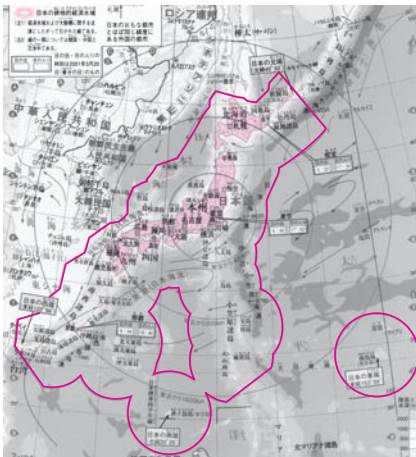
鹿児島市公立中学校 内村 芳樹

日本の国土、位置、地形の学習では、作業と暗記に頼る学習になりがちである。生徒自ら意欲を持って学習できるようにするためにはどうしたらよいか苦慮する小単元である。学習指導要領では、本小単元は中学校公民分野の最後に位置づけられている。このことを理解したうえで、小単元の学習課題を「日本の国土を外国の人に紹介しよう」と設定する。

上記の課題を提示されて、生徒はとまどいながらも、地理で学習した既得知識や様々なメディア等を利用して紹介しようと努力するだろう。そこで、日本を全く知らない外国人になったつもりで、質問をするという学習形態をとれば、個々の問題意識をゆさぶり、内容追求が具体的なものとなると考えられる。

排他的經濟水域とはなにか？

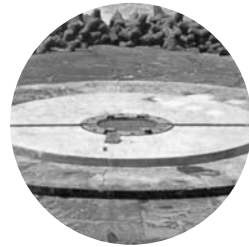
- 1 生徒たちがもつ国土（日本の位置や形）についての知識を発表させる。
- 2 日本の領土の範囲を（白地図に書き込ませながら）考えさせる。



「中学校社会科地図 初訂版」 p.151

- 3 地図帳p.151を見せ、違う点や疑問点を発表させる。
- 4 資料1から日本の領土問題を考えさせる。

資料1



島名は？

島

補助資料（「中学生の地理」 p.28～29も参照）

沖ノ鳥島は、東西5 km、南北2 kmほどの珊瑚礁の島（満潮時には、水没し、2つの岩礁のみが水面上に残る。政府は、285億円を投じて護岸工事を行った。保全工事終了当時の読売新聞記事（1999年9月1日）には「波から領土を守るチタンのふた」という見出しがつけられている。岩礁の周りを覆うフタだけで、8億円するという。

北方領土：国後島・択捉島・歯舞島・色丹島は日本固有の領土であり、ロシアに返還を求めている。

尖閣諸島：日本の領土であるが、中国も領土だと主張している（無人島である）。

竹島：日本の領土であるが、韓国も領土だと主張している（無人島である）。

- 5 4のことを踏まえ、沖ノ鳥島をこのようにして守る理由をまとめさせる。
- 6 日本の国土を外国の人に紹介しよう。

以上の流れから、日本の位置や形から国土の領域を学習したうえで紹介文を書かしていくと、我が国の領土は、他国との粘り良い話し合いのうえに決められているということに気づき、生徒自らが領土問題を解決するための手立てを考えことができる。